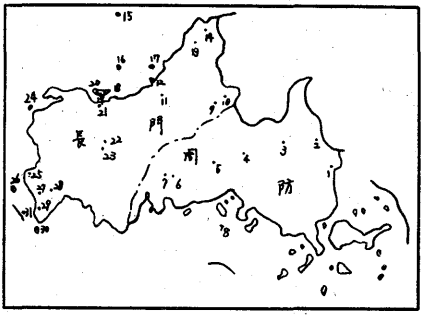
山口県地方の「アル」「アリマス」話体

―― 事態化表現の傾向 ――

岡　野　信　子

① 岩国市柱野
② 玖珂郡美和町大根川
③ 玖珂郡錦町宇佐
④ 都濃郡鹿野町
⑤ 佐波郡徳地町堀
⑥ 山口市大内菅内
⑦ 山口市吉田
⑧ 防府市野島
⑨ 阿武郡阿東町三谷
⑩ 阿武郡阿東町徳佐
⑪ 阿武郡川上村
⑫ 萩市大井
⑬ 阿武郡須佐町弥富
⑭ 阿武郡田万川町江崎
⑮ 萩市見島
⑯ 萩市相島
⑰ 萩市大島
⑱ 長門市（青海島）通
⑲ 長門市（青海島）大泊
⑳ 長門市（青海島）青海
㉑ 長門市湊
㉒ 美祢郡於福
㉓ 美祢市大嶺町北分入見
㉔ 豊浦郡豊北町角島
㉕ 豊浦郡豊浦町川棚
㉖ 下関市蓋井島
㉗ 下関市吉見
㉘ 下関市内日
㉙ 下関市安岡
㉚ 下関市彦島
㉛ 下関市六連島



はじめに

「オハヨー　アリマス（お早うございます）。」「ソレデ　アリマス（そうです）。」などの「アリマス」話体は，山口県地方の方言の一特色とされる。また親しい家をおとなって言う「コレニャー　オリテガ　アル　カノ。（ご在宅ですか。）」の「アル」も耳につく。「アル」「アリマス」の多用は，山口県全域に認められる，方言話体の一特色である。

この「アル」「アリマス」話体について，考察を試みたい。資料としたのは，「アル」「アリマス」話体の 337 文である。これらは，地図上の31地点における自然傍受法調査によって得たもので，おおむね昭和 46 年以降のものであるが，地点①と③との資料は，昭和32年のものである。

まず，本動詞として「アル」「アリマス」を用いた文を見る。

Ⅰ　述話部動詞として，「アル」「アリマス」を用いた話体の表現

動詞「アル」と，その丁寧体の「アリマス」とは，原義どおり，事物の存在を言うに用いられる。が，そのほかに，人の存在をも「アル」「アリマス」と言うことがあり，ま

た，人間の行為・活動，社会の状況などを言うさいにも，「アル」「アリマス」が，広く用いられている。

1　人の存在を言う「アル」「アリマス」

話題の人物の存在を，「アル」「アリマス」で言うことは，山口県全域で聞かれる。

○コドモガ　アリャーコソ　イネ。　子供がいるからこそ（働くの）よね。　※1㉕中女→※2調

※1　数字は地点番号である。

※2　「調」は，「調査者」を略記したものである。

○オトコノヒトニャ　アリヤショー　ガノ。　（長寿者は）男性にはいるでしょうがね。（女性にはいません。）　①老女→調

この二文の「アル」は，「いる」相当である。否定表現には，「ナイ」「アリマセン」を用いて，

○トリチャー　ナー。　（どんがめを）捕る人はいない。　⑧老男→中男

○ダレサラ　アイテニ　シチャー　アリマセン。　誰一人，相手にしてくれる人はいません。　㉔老女→調

のように言う。

このように，「アル」「ナイ」と表現される人物は，具体的個人であるAさんBさんではなくて，抽象的な人々一般である。そのような人々を「アル」と遇することは，一種の事態化表現である。

長門市大泊の老女は，尊敬助動詞「ナイ」（ナサイの簡略形）を用いるかとの筆者の問いに，つぎのように答えた。

○アッチー　イキナェテ　ユー　ヒトモ　アリマシタ　エノ。ソネー　ユー　モナージョーニ　オリャ　シマセン。　「あっちへ行きない。」と言う人もいましたよね。（もっとも今は）そのように言う者はたいしていやしません。　⑲老女→調

「そのことばを言う人もいた。」と，話題の人物との間に，ある距離をおいて回想している時，老女は「アル」をもって遇した。が，現実のあの人，この人を思い出した時，老女の答はおのずから「オリャ　シマセン」となっている。「アル」と「オル」との表現差，待遇差がここに明らかである。

抽象的，一般的な人間像としての他者を遇する「アル」が，特定的に，具体的個人である対者にも用いられることがある。

○コレニャー　オリテガ　アル　カノ。　このお宅には，おる人があるかね。――ご在

宅ですか。　㉒老男→訪問先

これは親しい家の門先に立って，在宅をたしかめる挨拶ことばである。この訪問辞は，長門域の諸地で聞く。ほぼ長門全域におこなわれているようである。周防全域の状況は明らかにし得ていないが，山口市域，徳山市域では，聞いたことがある。

対面以前ながら，すでに対者感をもってのおとないに，「アル　カ　」と言うのは，軽い尊敬待遇である。事態化は距離感をおいた待遇であるために，なにほどかの敬意が生じるのであろう。

ところで，人間以外の動物の存在については，つねに「オル」と言い，「アル」は用いない。敬意を伴う事態化表現は，動物には用いにくいのであろうか。

人間存在を言う「アル」を造語要素とする「アリツク」は，その意味が特定化されている。

○ツワノノホーカ　ドッカニ　アリツイチョル。　あの娘は，津和野のほうかどこか（の家）に嫁いで，そこで暮らしている。　⑦老女→老男

すなわち「アリツク」は，「他地の家に嫁いだ女性が，その家，その土地に根を下して生活している。」という意味で用いられている。

2　個人や社会の活動・状況を，事態の存在として表現する「アル」「アリマス」

個人や社会の活動，あるいは状況を，「～ガ（ワ・モ）　アル」と表現した文例はきわめて多いが，その中の一類は，「～をする（やる）」相当である。

○ノリガ　アル　アイダ　デラレン。　海苔の乾燥をやっている間は，（本土に）出かけられない。　㉕老女→調

○ワタシラノ　コロニャー　シーテ　ミアイモ　アリマセザッタ。　私どものころには，ことさらに見合い（など）していませんでした。　③老男→調

「～をする（やる）」の直接的な行動表現にくらべて，「～がある」の間接的な事態化表現は，一種の婉曲表現であり，いくらか上品なものいいとなっている。

○ウタセアミャー　キューギョーガ　アリヨッタ　ナー。　打瀬網漁のばあいは，（一定期間），休漁していたなあ。　⑧老男→調

「～アリヨッタ（アリヨリマシタ）」の形のものがことに多いのは，回想気分と事態化表現とが，よく調和するためであろう。

第二類には，動詞一語であらわし得る意味内容を，「体言　アル（アリマス）」形式によって表現したものがあげられる。

○ダイムン　ヒラキガ　アリヨリマシタ。　だいぶ開いて（差がついて）いました。

⑫老女→調

○ワカイ　トキニャ　マタ　ノー。ヒトサカリ　アッタケド　ハー　トシー　トッタラ　ダメジャ。　若いころにはまたねえ。一盛り栄えたものだけれど，もう年老いたらだめだ。　⑮老女→調

つぎのものには，体言部分の造語に特色が見られる。

○コリャー　カキドガ　アル。　これは（まあ）ずいぶんたくさん書かなくてはならない。　㉓老女

○ソコオモリガ　アル　ド。　コイツァー。ずしりと重いぞ。こいつは。<大きな魚を釣りあげようとしている漁師の歓びのことば>　㉘中男

第三類は，「アル」の具体的内容は主話部の修飾話部に出して，「そのような～ガ（モ）　アル」と表現する事態化表現である。

○エー　リョーガ　アッタ　ダェイ。　魚がたくさんとれたぞ。　㉘中男→老男

○オトト　オカカチュー　ジダイモ　アリヨッタ。　あの時代は，オトト（父）・オカカ（母）と言っていた。　㉚中男→調

第三類としたものの中には，主語が「コト」であるものが多い。

○ハヤイ　ハナシガ　メバルノヨーナ　モンデモ　クーテ　イナセン　コトガ　アリヨッタ。　ちょっと言ってみれば，メバルなんかでも，ずいぶん釣れて，帰れないことがあった。　⑧老男→調

○ナニオ　タビョーチュー　コトモ　ナンニモ　アリャー　セン。　何が食べたいなどとは，まったく思わない。（優しいことばだけがほしい。）　⑯老女→調

「コト」化――事態化説明表現の傾向が，ここにも明らかである。

3　状況や所有などを，ものの存在として表現する「アル」「アリマス」

○ハー　ソノトキニャ　キシャガ　アリマシタケ　ナー。　ええ，その時代には，（もう）汽車が通っていましたからねえ。　㉗老女→調

○イマノ　ノーギョーカイガ　ヒトツ　アロージャ　ナシ　ナー。　あのころは，現在の農業会だって設立されていたわけではないしねえ（寒村だった）。　㉔老男－調

○アシー　アノー　ミズカキガ　アロー　ガナ。　（潜水服の足）に，あのう，水かきがついているでしょう，ね。　㉙老女→調

これは，「ものガ（ワ・モ）　アル」形式で，状況を説明した表現である。その「も

の」は，具体的な「物」と，抽象的な「もの」とを問わない。この形式の文にはまた，ものものを所有するという意味のものもある。

○ソイデ　イネモ　マー　ウチラー　ボーリングガ　アリマスカラ　ネー。　それで，（日照りがこんなに続いても）稲もまあ（大丈夫です。）私の家などはボーリング機を持ってますからねえ。　⑲老男→調

○セツキブツナンカノ　ケンリワ　ジモトニ　アッタホデショー。　瀬付物（海苔・てんぐさなどを言う）などをとる権利は，（昔から）地元が持っていたんでしょう。　㉙中男→調

このように，「そのものを所有している」と直截に表現せず，「そのもののある」事態として表現するのは，婉曲表現法でもある。それは，おのずからひかえめな表現ともなっている。

述話部本動詞として「アル」「アリマス」を用いた話体は，以上のように，事態化表現傾向のものである。丁寧体の「アリマス」に近いものとして，「ゴザ（ダ）リマス」・「ゴザ（ダ）イマス」，およびその簡略形のさまざまのものがある。ただし，これらは主として補助的用法のもので，本動詞用法のものは少ない。「アリマス」との比較は，補助的用法を述べるさいにおこないたい。

Ⅱ　述話部補動詞として，「アル（アリマス）」を用いた話体の表現

「アル」「アリマス」は，「～テ」「～デ」「～ジャー（では）」「～ニ」「～ゴト（如）」に続いて，また「形容詞ウ音便形」に続いて，述話部の表現を完成させる。

1　「動詞＋テ　アル（アリマス）」の表現

○コノサキ　サーテ　アッタ。　この先の方に，（山から持ち帰った木が），さしてあった。　③老男→調

○ムスーデ　アリマス。結んであります。　㉔老男→調

○アナタニ　アソコ※デモ　ホッテ　アリマショー。　お宅では，あそこにも（井戸が）掘ってあるでしょう。　⑦老女→老男

※「デモ」は，「ニモ」の言い誤りかもしれない。

これらに見られるように，「動詞＋テ」話部は，「テ」によって，行為を事態に転換している。一種の体言化と言えよう。そして「アル（アリマス）」は，そのような事態が，そこに実現していることを言っている。すなわち「～テ　アル」は，事態存続態である。これの主話部となるのは，つねに事物で，人物が主話部となること※はない。

※福岡県の筑前方言では，「タツテ　アル。」（立つていられる。）のように，人についても「～テ　アル」を用い，これは日常敬語である。

「～テ　アル」は，「～チャル」となることが多い。助動詞と認定される。

○アノ　ナンテラ　ユー　ナニー　カーチャル　ノー。　あの何とかいう，あれに書いてあるねえ。　⑧老男→調

「～テアル（アリマス）」「～チャル」話体は，筆者の自然傍受法調査では，ごくわずかしか得られていない。事物を主話部とするこの話体は，日常の言語生活の中に，さして多用されていないのであろうか。あるいは筆者がこの話体に注目していなかったために，得られた文例が少ないのであろうか。

2　「体言＋デ　アリマス」

「体言＋デ」を受けるのは，「アリマス」にかぎられている。「～デ　アル」形式のものはない。「～デ　アリマス」は，丁寧体の説明表現として多用されており，また挨拶ことばにこの形式のものが多い。

○アノトキデ　アリマシタロー。　あの時だった※でしょう。　⑥老女→老男

※「～デ　アリマス」は，「～です」より丁寧度がやや高いが，対応する共通語がないので，便宜的に「です」をあてる。

○シコナジャ　アリマセンロ　カ。　（その屋号は）あだなではないでしょうか。

⑬老女→調

これらは説明表現のもので，否定のばあいは，「～ジャ（では）　アリマセン」となっている。体言部には，つぎのように限定助詞が添うこともある。

○ジバエバッカリデ　アリマス。　（ここに来ているのは）土地っ子ばかりです。

⑤中男→調

○タダ　ツイ　ユーダケデ　アリマス　ノ。　ただちょっと言うだけですね。　⑬老女→調

形容動詞のばあいは，後述するように，「～ニ　アリマス」形式をとるのが一般であるが，「ダメジャ」などの特定の語は，「～デ　アリマス」形式をとる。

○ハー　アナター　ワタクシャー　ダメデ　アリマス。　もうねえ，私はだめです。（90歳にもなって。）　⑳老女→調

また「ソー」「ドー」などの指示副詞も，「ソーデ　アリマス　イノ。（そうですよね。）」「ドーデ　アリマス　カ。（いかがですか。）」となる。もっともこれらは新しい表現で，老・中年者は，「ソレデ　アリマス。」「ドネーニ　アリマス　カ。」と言うことが多い。

状況や行為をこの話体で説明する時は，用言を中核とする前接部を，「コト」「モノ」，あるいは準体助詞の「ソ」「ノ」で統括して，これに「～デ　アリマス」を続ける。

○イマノ　モナー　スマス　コトジャ　アリマセン。　今の（若い）者は，黙認しやしません。　⑦老女→調

○エラーチャ　エラーガ　ソガーナ　モンジャ　アリマセン　ノー。　たしかに体がひどく疲れるが，（若い時は）そんなことは問題じゃありませんねえ。　③老男→調

○アシノサキカラ　アタマノテッペンマデノ　シタクオ　ミナ　スルソデ　アリマス。（紐離しの祝には，嫁の親元が）孫の晴着を全部作るのです。　㉑老女→調

事態化表現の傾向が，ここにも顕著である。

「～デ　アリマス」話体はまた，挨拶ことばにも多用される。挨拶ことばでは，体言に接頭辞「オ」を冠することが多い。

○エー　オウルイデ　アリマシタ　ノー。　いい雨が降りましたねえ。㉔老女→老女

○マー　ゴシンパイデ　アリマシタ　ノー。　まあお世話様でしたねえ。<回覧板を届けた人へのねぎらい>　⑪老女→老男

体言部分は，つぎのように，「コト」に統括されたもの，また接尾辞「サ」を添えて体言化したものなどと，さまざまである。

○タエガタイ　コトデ　アリマシタ。　いたみ入りました。<土産などをもらった時の感謝辞>　②老女→訪問者

○マー　ゴダイジ　ナサイマセ　ヨネ。アツサデ　アリマスケー　ネ。　まあお大事になさいませよね。　お暑うございますからね。　⑭老女→老女

また相手のことばへのうなずきにも，

○ハー　ハー　ソレデ　アリマシタ。　はいはい，そうでした。　⑩老女→調

と言う。

老・中年層にかぎられるとは言え，「～デ　アリマス」話体がこのように栄えているのは，山口県地方における方言表現法の一特色である。

「～デ　アル」形式のおこなわれていないことはすでに述べたが，これに相当するのは，助動詞「ジャ」である。⑪川上村の老女は私に，

○アレガ　バーチャンノ　ウチワデ　アリマシタ。　あの家がばあちゃんの親戚でした。

と説明した後に，ひとりごつように「イエモトジャッタ。（実家だった。）」と言った。

やや遠慮のある相手には，「～デ　アリマス」体で語り，親しい者に語る時やひとりごとの時には，「～ジャ」となるのである。

丁寧体には「～デ　アリマス」のほかに「～デス」もあるが，これは主として中年層以下におこなわれている。また，野島では，

○モト　ハタケデ　アッタンデス　ネ。　以前は畠だったのですね。　⑧中女→調

と，「アリマシタ」のかわりに「アッタンデス」も聞いたが，一般的ではないようである。

一方，「オジャマデ　ゴザリマシタ。（おじゃま致しました。）」㉑のように，「ゴザリマス」話体もおこなわれているが，これは丁寧度がいちだんと高く，古老のことばにかぎられている。また，「ゴフキョーデ　ゴザイマシタ。（おもてなしができず，ご不興でございましたでしょう。）」<豊浦郡豊北町阿川>や「オヒデ　ゴザンス。（いいお天気ですね。）」⑤のように，「ゴザ（ダ）イマス」「ゴザ（ダ）ンス」話体もおこなわれている。これらは女性ことば，あるいは対女性ことばである。

「アリマス」話体は，これら一連の「ゴザリマス」系のものよりは丁寧度はやや低いが，いちだんと優勢である。そして多用されるうちに多くの簡略形も生じた。

○ハー　ソノウエノ　エー　コトバデ　アンショー　イ。　はい（それは）一段とよいことばでしょうよ。　⑥老男→調

○ソリャー　ナンデ　ヤンス　ナー。　それはあれですねえ。　⑱老男→調

これらでは，「アリマス」が「アンス」「ヤンス」となっている。また

○オームスコジャリマス　ノ。　大きな坊ちゃんですね。<男子出産を祝うことば>
②老女→産婦の母

では「デ」と「アリマス」とが熟合して「ジャリマス」となっている。「ジャリマス」は，「ダリマス」ともなる。一方，「デ」と「アンス」の熟合した「ダンス」もあってこれは「ジャリマス」「ダリマス」よりさかんにおこなわれている。

○ミンナ　イエツキダンス。　（私どもはみな）家つき娘です。　⑦老女→調

「ダンス」がときに「ドンス」となる地域もあるらしい。徳山大学の山中鉄三教授が，徳山市大道理で「アネーニシテ　ナンドンス。カラダー　フタツニ　シテ　モローテ……。（あんなにしてなんです。（無事）身二つにしてもらって……。）」（昭和55年度方言収集緊急調査――文化庁）と「ドンス」を得ていられる。

さて，以上のような「～デ　アリマス」話体の一類に，つぎに述べる「～テデ　アリマ

ス」がある。

2′．「動詞＋テデ　アリマス」の表現

「アネー　ユーテデ　アリマス。（あのように言われます。）」のような「～テデ　アリマス」話体も，山口県全域の老・中年層の間に栄えている。

「ユーテ」は，いわゆる「テ」敬語であるが，措定機能を持つ助詞「テ」によって，人の行為が事態化されている。事態化は，一定の距離をおいた表現でもあるが，これはしぜんに敬意を伴なう。また事態化された部分は体言相当であるから，「デ」で受けることができる。このような「～テデ　アリマス」とその簡約形は，話題主の行為を，そのような事態の存在と把握した，尊敬表現の丁寧説明話体である。

○ハギヤラ　ツワノヤラ　ネー。イマニ　キテデ　アリマス。萩だの津和野だの（から）ねえ。現在に到るまでずっと行商に来られます。　⑬老女→調

○ハジメテ　ココ　ヤッテデ　アンシタ。　（このお宅のおじいさんが）ここで（網漁を）最初にされました。　⑬老男→調

○クレテ　モドッテダンス。　（農家の人は）日が暮れてから，山から帰られます。　⑭老女→調

否定のばあいは，2のばあいと同様に「～テジャ（てでは）アリマセン」と，助詞「は」がおかれる。

○イヨイヨ　デテジャ　アリマセン。　まったく外出されません。　④老女→老女

また「～テデ　アル」という普通説明体（丁寧体でないもの）がないことも，2のばあいと同様である。それに相当するのは，「カエッテジャ（帰られる）」「カエッテジャッタ」「カエッチャッタ」などの，「～ジャ」「～チャッタ」形式である。もっとも，「イッテジャ　アルマー。（行かれないだろう。）のように「アルマー」形式では，「アル」も用いられる。一方，否定の「ナイ」は，「ユーテジャ　ナイー　ネ。（言われないよね。）」などと，多用されている。

ところで，「～テデ」の「デ」は，

○ハタケー　オッテ　アリマシタ　デー。　（おじいさんは）畠におられましたよ。　⑥老女→老女

○オボエトッテ　アルマー　テ。　記憶してらっしゃらないだろうよ。　⑭老女→老女

のように，省略されることもある。「テ」にすでに措定機能・事態化機能があるためであろうか。打消の「ナイ」に続く時は，「イッチャー（行っては）ナイ」とともに，「イッ

テン　ナイ」も言う。「ン」はナ行音の前の撥音挿入であろうか。あるいは，措定機能を持つ助詞「ニ」であろうか。「イッテー　ナイ」と，長呼されることも多い。

「テ」敬語の丁寧話体には，「〜テデ　アリマス」とともに，「〜テデス」や「〜テデ　ゴザンス」などもある。その状況は，「〜デ　アリマス」のばあいと同様である。

3　「体言＋ジャー　アル（アリマス）」の表現

さきに，「体言＋デ　アリマス」をとりあげたさいに，「〜デ　アル」話体の存しないことにふれたが，「〜ジャー（では）アル」は，山口県全域の，主として中年層以上におこなわれている。

○キカン　コトバジャー　アル。　（それは，ここでは）耳にしないことばだ。　㉘中男

○ドッチミチ　ソノホーガクジャー　アル。　いずれにせよ，その方角なのだ。　⑪老男

○ソリャー　オモシロイ　モンジャー　アリマス　テ。　それはおもしろいものですよ　③老男→調

これらにうかがえるように，「〜ジャー　アル」は，判断を強くうち出す話体で，「〜ジャー　アリマス」は，その丁寧体である。丁寧体よりは，普通話体のほうが多用されている。また，いちだんと強く言う時は，

○ワシガ　デランニャ　イケンノジャー　アルンジャガ…。　（組合のしごとに）私が出なくちゃいけないんだが…。　③老男

○ヒャクショーセンモンジャ　アッタンドンスケンド　ノー。　百姓一本だったんですけどねえ。　⑨老男→調

のように，「〜ジャー　アルンジャ（〜ではあるのである）」「〜ジャ　アッタンドンス（〜ではあったのであります）」の言いかたもする。「アル」多用の状況がここにもうかがえる。

4　「形容動詞ニ語尾連用形　アル（アリマス）」の表現

「コーシャニ　アッタ（たくみだった）」の「コーシャニ」は，学校文法では，形容動詞の「ニ」語尾連用形とする。一方に，これを「名詞＋ニ」と見るむきもあるのは，「ニ」に措定機能が認められるからであろう。

○コノ　イシャー　ケントー　オーキニ　アッタ。　この石は案外大きかった。　⑤中男

○コトバガ　テーネーニ　アッタ。　ことばが丁寧だった。　⑫老男→調

○コカー　ザマクニ　アリマスカラ。　ここはとりちらしていますので（あちらにどうぞ）。　㉑老女→調

○オマメニャー　アリヤシタ　カ。　お元気でしたか。　②老女→調

このように，「ニ」と措定して，「アル（アリマス）」と，その事態の存在を言う形式は，さきの「～デ　アリマス」と対応する。「～デ　アリマス」が，「もの」「こと」の存在としての表現であるのに対して，「～ニ　アル（アリマス）」は，「さま（様）」の存在としての表現である。

ところで，「～デ」のばあいは，丁寧体の「アリマス」だけがこれを受けるが，「～ニ」は「アル」にも「アリマス」にも続く。ただし，「アル」の終止形のものは，

○コドモモ　カワイソーニ　アル。　子供もかわいそうだ。　㉒青男

の一例を得ているばかりで，多くは，完了形の「アッタ」である。防府市野島では，

○ブチョーシニ　アッテ　ノー。　調子が悪くてねえ。　中女→調

と「～ニ　アッテ」の一例も得ている。

現在終止のばあいは，「ニギヤカナ」「キレーナ」のように，形容動詞の「※ナ」語尾で言うことが多くなって，「～ニ　アル」形式は衰えたのであろう。完了形の「ニギヤカナカッタ」「キレーナカッタ」も，若い人々はよく言うが，老年者の間には，「～ニ　アッタ」が，今日もかなり優勢である。ときに形容詞のウ音尾形に「ニ」を添えて，

○ハタチノトシデシツロー。モチート　ハヨーニ　アッタカモ　シレン。　二十歳の時だったでしょう。も少し早かったかもしれない。　㉗老女→調

と，「ハヨーニ」のように言うこともある。「～ニ　アル」形式の優勢なためであろう。

※「ナ」語尾とともに，「ニギヤカジヤ」「キレージヤ」と「ジヤ」語尾もときに聞く。「ジヤ」語尾しかとらないのは「ダメジヤ」で，したがつて，「ダメニ　アツタ」の言いかたはない。③玖珂郡錦町字佐では，「ハツメイナジヤケ（利口だから）」「ガマンナジヤケ（強情だから）」と「～ナジヤ」形も聞いている。

否定表現には，「ジョーブニ　ナイカラ。（丈夫じゃないから。）」㉙，「タッシャニ　アリマセン。（健康じゃありません）」⑬のように，「～ニ　ナイ」「～ニ　アリマセン」と言う。

丁寧体には，「～ニ　ゴザイマス」系のものもあるが，「～ニ　アリマス」がもっともよくおこなわれている。

5　「様態の助動詞連用形　アル（アリマス）」の表現

様態の助動詞の連用形は，「※ゴト」「ヨーニ」「ミタイニ」である。これらを，用言や「体言＋ノ」形式のものに続けて，「アル（アリマス）」で結ぶ話体もよくおこなわれている。

※「ゴト」は，長門域の，響灘沿岸域で聞くことが多い。山口市の農村部でもまれに聞く。

○イッパシ　フローゴト　アッタ。　一降り降りそうだった。　⑥老男→老女

○オナゴノホーガ　オイーゴト　アル。　（長寿者は）女性のほうが多いようだ。

㉘老男→調

○マンザイノゴト　アル。　万歳のようだ。　㉗中女

○ダイブ　マガッテノゴト　アリマス。　（あの方は）だいぶ腰が曲がられたようです。　⑪老女→老男

これらの「～ゴト　アル（アリマス）」形式は，そのような様態の存在を言う形で，じつは判断を婉曲に表現したものである。同類のものに，「～ヨーニ　アル」がある。

○ズイブン　オイーヨーニ　アルローヤ。　ずいぶん多いようだろう？ね。⑮中女→中女

○キカエノヨーニャ　アリマセン　ヨ。　（昔は櫓で漕ぐのだから，今の）機械のようではありませんよ。（大変でした。）　⑱老女→調

「～ゴト　アル」「～ヨーニ　アル」のほかに，「～ミタイニ　アル」もある。もっとも，これは前二者ほど多用されていない。筆者のカード中には，つぎの一例があるばかりである。

○ナンカー　ココノ　ヒトワ　シンボーセル　ホマレミタイニ　アッタ。なにかこう，見島の人は，辛抱することがほまれみたいだった。　⑬中女→調

若年層では，「～ゴト　アル」はほとんど言わず，また「～ヨーニ　アル」「～ミタイニ　アル」は，「～ヨーナ」「～ミタイナ」と，一語で言うことが多い。

「様態の助動詞　アル」は，様態の存在を言う形式という点では，さきの「形容動詞ニ語尾連用形　アル」と同類である。ただし，形容動詞を「アル」に続けたものが，主として説明表現であるのに対して，「～ゴト　アル」「～ヨーニ　アル」は，おもに判断表現のものである。

6　「形容詞ウ音便形　アリマス」の表現

形容詞のウ音便形を「アリマス」で受ける話体も，山口県全域に栄えている。

○ソリャー　タガホーガ　ヨー　アリマス　ノー。　それは田の方がいい※ですね。

③老男→調

○リョードモ　センノー　アリマス。　漁師もいそがしゅう※ございます。⑰老女→調

※「アリマス」と，「です」「ございます」とは，丁寧度が微妙に異なるが，便宜，これらの共通語をあてた。

この二文の前者は説明文で，後者は心情訴え文である。この形式のものには，心情訴え

文がことに多い。

この話体には，さきの「～デ　アリマス」や「～ニ　アル（アリマス）」に見える，「デ」「ニ」の措定辞がない。それゆえに，形容詞部分の客体化・事態化傾向は，さほど顕著ではない。ただし，「エー」「センナー」と，形容詞の終止形で言いきる表現にくらべれば，「～う　アリマス」話体は，単に丁寧体であるにとどまらず，そこになにほどかの事態化傾向が認められる。

挨拶ことばでは，形容詞に接頭辞「オ」を冠することが多い。

○オハヨー　アリマシタ。　お早うございます。　㉑中男→老男

○ミンナ　ヨバレテ　オタエガトー　アリマス。　家族一同がご馳走になりましていたみ入ります。　⑬老女→中女

○オタコー　アリマスガ　オユルシンサレ。　座が高うございますが，お許しなさいませ。　⑤老女→老女

接頭辞「オ」を冠したものには，事態化の傾向が，いくらかはっきりしてくる。

6′　「形容詞ウ音便形＋ワ　アル」の表現

形容詞のウ音便形を「アル」が受けた文例は，つぎの一例を得ているばかりである。

○ネムトーワ　アル　カエー。ヘーカラ　ツクル　ツクル　ワラ　タタックケド　ナニスグ　ネムル。　眠くはあるしねえ。それから（ぞうりを）作りながら藁を打つけれど，なにが（しごとになろうか）すぐに眠る。　⑭老女→調

この文例は，すでに『梅光方言研究』第2号で報告したものであるが，筆者の得ている該当文例はこの一例だけである。「ネムトーワ　アル」は，さきの「キカン　コトバジャー　アル」に対応する形式のもので，「～ジャー　アル」が判断表現であるのに対して，「ネムトーワ　アル」は，心情訴え表現である。「ネムトーワ　アル　カェー。」は，文末詞結びとなっているので，一文と認められるが，ただちに後続文を呼ぶ語気のものである。

Ⅲ　事態化表現のさまざま

筆者は，山口県地方の一方言状況である「アル」「アリマス」話体を考察して，その本質とするところは，事態化表現の傾向であると判断した。この視点から，あらためて山口県地方の方言状況を見てみると，事態化表現傾向と捉えられる方言事象がほかにも多く認められる。

まず，述話部を形成する二種の「ナル」がとりあげられる。

○エー　ゴフシンガ　ナリマシテ。　りっぱな家がおできになって（おめでとう存じます）。　⑭老女→老男

これは新築祝いの挨拶ことばであるが，家を建てたと言わず，普請が成就したと表現している。人の行為を，事の成就に転換しての表現は，事態化表現の一類である。山口県地方では，「ナル」を，このように用いることが多い。

○アリャー　カイニンニ　オナリター。　あの方は妊娠なさった。　③老女→調

このばあいの「ナル」は，さきのものとは異って，推移をあらわす「ナル」である。「懐妊した」ことを「懐妊ニ　ナル」と表現するのもまた，一種の事態化表現である。

また，述話部が体言から成るものも，事態化傾向のものと認められる。山口県全域で聞く

○ソリャー　ソレ。　そのとおりだ。　⑦老男→老男

というあいずち文の述話部は，指示代名詞「ソレ」である。

○ナンシ　カナン。　なんのしごとで出かけるのかね。　㉔中女→中女

○ナニゴト　カノー。　なにか用事があるのかね。　⑥老女→老女

これらの「ナンシ」「ナニゴト」もまた，体言述話部である。

一方，主話部では，人を指して「アレ」と言うのに注目させられる。

○アリャー　イッテー　ナイ。　あの方は行かれない。　⑥老女→老女

「テ」敬語述話部をとっている「アリャー」には，なにほどかの敬意があるはずである。「あれ」と指示するのは，「こと」化――事態化であり，そこにいくらかの敬意も伴うのであろう。

○コレニャー　イマ　ユーハン　カイ。　お宅はいま夕飯かね。　③老男→老男

「コレニャー」は，相手方を「コレ」と事態化し，「ニ」と措定したことによって，軽く敬意をあらわした表現となっている。「ニ」はまた

○ゴーニ　ヨイ。　郷さんよい。　⑥老男→老男

と，軽く敬意を託した呼びかけにも働く。このような「ニ」は，山口市大内菅内と，田万川町江崎とで聞いているが，他にも言うところがあろう。

修飾話部に，「コト」に統括されるものの多いことも，事態化表現傾向のものと認められる。

○フガ　ワリー　コター　トダナニ　アッタンジャ。コージガ。　運悪く戸棚にあった

んだ。麹が。（それで密造がばれた）　⑦老男→老男

○マー　オーゴト　キテカラ。　まあ，たくさん着て（暑いだろう）。　⑥老女→娘

○エラコト　アンター　アシター　キチャ　モラワレマスマー　カエ。　お疲れでしょうがねえ，あした手伝いに来てはもらえないでしょうか。　⑥老女→老女

このように，諸話部に事態化表現傾向が認められるが，最終的に文を統括する文末話部にも，つぎのように，体言より転成した文末詞がたって，一文を事態化する。

○タベテ　カエリャー　エー　コト。　食べて帰ればいいのに。　㉛老女→中女

○アシガ　スキナ　ソ。　私が好きなんだ。　⑱老男→調

○オカサン　コーリャ　ナイ　ホ。　お母さん，氷はないの。　㉖中女→老女

文末詞「コト」は，言うまでもなく，名詞「こと」より転成したものであり，「ソ」の出自は，代名詞「それ」である。この「ソ」は，子音交替によって「ホ」ともなる。

事態化表現の傾向は，山口県地方の方言に，このように顕著である。

おわりに

「アル」「アリマス」話体——ことに，「〜デ　アリマス」話体，「〜ニ　アリマス」話体，また「〜う　アリマス」話体の栄えていることは，たしかに，山口県地方の方言話体の一特色である。山口県人好みの話体といったものを，ここに見ることができる。

とはいえ，隣接する九州地方には，「アル」話体が，いちだんと栄えている。広く日本語方言共時態を見渡すならば，「アル」「アリマス」話体は，その地方地方の方言色を見せながら，諸地方に栄えているのではあるまいか。

一方，文献上にさかのぼっても，私どもはただちに「むかし，をとこありけり」<伊勢物語>の語り口を思いおこすことができる。また，幼い日に読んだ「桃太郎」の話の冒頭は，「ムカシムカシ，オジイサント　オバーサンガ　アリマシタ。」であった。

「アル」「アリマス」話体，——そしてそこに認められる事態化表現の傾向は，日本語表現法の一特色として考察されるべきものであろう。

この稿は，広島方言研究所「第10回方言研究ゼミナール」（1981．8．27〜30）で発表したものを改稿したものである。藤原先生はじめ，諸学兄姉のお教えをたまわったことを深く感謝申しあげる。